



苏州农业职业技术学院
Suzhou Polytechnic Institute of Agriculture

毕业论文（设计）

课题名称	中国における日本のポピュラー音楽の 伝播と受容
课题类型	☐ 毕业设计 ☒ 毕业论文
二级院系	人文科学系
专业班级	商务日语 14-1 班
学 号	140301115
姓 名	李琪
指导老师	成吴霞

2017 年 5 月 1 日



要旨

要旨：中国の経済発展につれて、中国のポピュラーカルチャーは、単一の文化構造を破り、多様化の方向に進んでいる。ポピュラー音楽がポピュラーカルチャーの中の独特のものの一つとして絶大な人気と影響力を誇っている。中国のポピュラー音楽は20世紀30年代から、市場、経済、社会環境、様々な文化思潮などの影響で、制作と市場の面では徐々に成長してきた。その中、アジア最大の音楽マーケットを有する日本はその巨大な影響力を有した。また、日本ポピュラー音楽のこのような浸透は、カバー曲および原曲の伝播により実現したものだと考えられる。

本論文はカバー曲と日本語原曲の中国での流行を研究して、中国における日本のポピュラー音楽の伝播・受容過程およびその原因と影響を分析し、日本のポピュラー音楽が中国で広く浸透した理由を検討してみたいと思う。

キーワード：ポピュラー音楽 伝播 受容 カバー曲

摘要

摘要：随着经济的不断发展，中国的大众文化亦打破一段时期以来单一文化的结构，逐渐形成多元文化的格局。而在此过程中，流行音乐无疑是这其中最具文化影响力和号召力的独特文化形式。中国的流行音乐从20世纪30年代起步至今，在市场、经济、社会环境及各种文化思潮等因素的影响下，在制作和市场上都慢慢成熟起来。在这一过程中，作为拥有亚洲最大流行音乐市场的日本显示了其巨大的影响力。而日本流行音乐在中国的渗透主要是通过翻唱及原唱歌曲的传播来实现的。

本文通过研究翻唱日本歌曲及日文原曲在中国传播的现象考察了日本流行音乐在台湾的传播与接收状况及其影响，并试着探讨日本流行音乐在中国享有极高传唱度的深层原因。

关键词：流行音乐 传播 接受 翻唱歌曲



目次

一、序論.....	1
二、本論.....	1
1. 中国における日本ポピュラー音楽の受容状況.....	1
1.1 カバー曲 の流行	2
1.1.1 カバー曲流行のはじまり（70年代－80年代）.....	2
1.1.2 カバー曲流行の繁盛期（90年代）.....	3、4
1.1.3 カバー曲流行の安定期（21世紀）.....	5
1.2 原曲の伝播	5
2. 中国における日本ポピュラー音楽の受容要因.....	6
2.1 日本の文化発信戦略	6
2.2 中国若者の働き	7
2.3 中日文化の類似性と相違性	7
三、結論.....	8
四、謝辞.....	9
五、参考文献.....	10

中国における日本のポピュラー音楽の伝播と受容

一、序論

1990年代に入り、中国では日本のポピュラーカルチャーへの人気が高まり、人々の間に深く浸透し始めた。しかし、このような現象はここ最近の話ではなく、アニメやテレビ・ドラマなどは中国の改革開放で1970年代から受け入れられてきたが、90年代における日本のポピュラーカルチャーの人気はそれまでと比較して幅広い（特に若い）層の人々に支えられるものとなり、現在中国ではありふれた日常の光景ともなっている。その中でもポピュラー音楽は、テレビ・ドラマやアニメと並んで特に人気がある。

本論文はカバー曲と日本語原曲の中国での流行を研究して中国における日本のポピュラー音楽の伝播・受容過程およびその原因と影響を分析し、日本のポピュラー音楽が中国で広く浸透した理由を探してみたいと思う。

二、本論

1. 中国における日本ポピュラー音楽の受容状況

中国ポピュラー音楽の歴史を振り返ってみると、その生産プロセスと伝播方式の、切っても切れない関係が見える。その中、アジアで音楽市場が一番早く成長を見せた日本が間違いなく近隣である中国に莫大な影響を与えた。

70年代からの中日国交正常化と改革開放政策で、日本のテレビ番組が輸入され、中国人は日本ポピュラー音楽と接触し始めた。80年代から、台湾・香港から大量の日本のカバー曲が流れ込んできて、日常生活の中に、日本ポピュラー音楽が溢れていたのである。だが、それらの曲を中国語で唄っていたため、それが日本の曲だと気づく人が決して多かったとは言えない。

21世紀のインターネットの普及で、あらゆる分野の情報が溢れてきて、中

国人もだんだんカバー曲というものを意識してきた。今や毎年、様々な日本語歌唱コンクールが各地で開催されるほど、中国人の間に広く受容されたのである。

中国における日本ポピュラー音楽の伝播過程を明らかにするために、本節は、日本ポピュラー音楽が中国で伝播する過程を大きく、カバー曲の流行と原曲の伝播の二つの段階に分けて論じていく。

1.1 カバー曲の流行

カバー曲は、「あるアーティストが歌っていた歌を他のアーティストがアレンジを加えて、もしくはアレンジなしで原曲に忠実に歌った曲」¹と定義される。徐元勇氏は「翻唱・玉置浩二・張學友」という文章に、カバー曲について、（１）メロディーやリズム、サウンドなどアレンジなしの上に、歌詞やタイトルまで原曲の意味を忠実に中国語に翻訳するもの、（２）歌詞をそっくり入れ替えて曲だけ利用するもの²だと解釈している。本論文においてもこの説を取っている。

中国語にカバーされた曲の中では、日本のものが最も多い。不完全であるが、ある統計によると、その数がすでに２０００曲も上回っている³。現在中国での日本ポピュラー音楽がよく知られている要因の一つだと言える。本節においては、中国における日本のカバー曲の歴史を３つの時期に分けて具体的に論じてみたい。

1.1.1 カバー曲流行のはじまり（７０年代－８０年代）

一般的には、８０年代が中国ポピュラー音楽の真のはじまりだと認められている⁴。１９７８年、改革開放政策の開放と共に、中日の音楽交流が一気に盛んになり、カバー曲も現れた。この時期のカバー曲の特徴は以下の二つが挙げられる。

① 郷愁から生まれたカバー曲

文化大革命期に行われた上山下郷運動で、多くの都市部の青年が地方の農村

¹王歡. 論流行樂壇的翻唱. 河北大學修士論文, 2009. 3-4を参考

²徐元勇. 翻唱・玉置浩二・張學友. 日語知識, 2007(11). 47を参考

³屈慧文. 浅析中国流行音乐現状及發展態勢. 河北師範大學修士論文, 2011(09). 5を参考

⁴孫蕤. 中国流行音樂簡史. 北京:中国文联出版社, 2004. 11を参考

に下放された。地方を援助するために故郷を離れた若者を思い、哀愁の漂う歌曲が沢山作られた。したがって、この時期のカバー曲の役割として、「郷愁」が挙げられる。こんな思いが込められている日本の名曲「北国の春」もこの時期に「北国之春」としてカバーされ、大ヒットした。今でも誰もが口ずさむほど中国人に親しまれている。

② ドラマ・アニメ主題歌のカバー曲

また、この時期は中国において、テレビの普及が急速に進行した時期でもある。改革開放の政策の下に、中国のテレビ局は日本から大量のテレビ・ドラマとアニメを輸入し、莫大な人気を得た。その中、代表的なものとして「鉄腕アトム」「一休さん」などが挙げられる。これらの主題歌は中国語に翻訳され、愛唱されていた。その影響が大きく、世代を問わず今でも多くの人に親しまれている。

一言で言うと、この時期における日本ポピュラー音楽の伝播は長い間の圧迫から精神的な開放を切実に求める需要を基盤として発展してきたものである。

1.1.2 カバー曲流行の繁盛期（90年代）

改革開放の展開に伴って、政治の民衆へ束縛が次第に緩んできた。尋根と懐旧の思いが90年代初期の主な社会情緒となって、音楽に求める需要がさらに多様化になった。ちょうどその時期、台湾・香港では日本ポピュラー音楽のカバーブームが巻き起こされていたから、千曲を超えたカバー曲がそれを契機に大陸の人々に伝わった。その頃のカバー曲の特徴としては、歌詞をそっくり入れ替えて、メロディーだけ利用することがあげられる。今でも広く唄われているのは「千千阙歌」（「夕焼けの歌」のカバー）、「跟往事干杯」（「乾杯」のカバー）など沢山ある。

① 玉置浩二

大物ミュージシャン。彼を中心に結成された80年代を代表するロックバンド「安全地帯」は、1973年デビューしてから、数々の大ヒット曲を世に送り出し、社会現象を引き起こした。日本だけでなく、彼の影響は張學友、張國榮、黎明など数多くの中国有名アーティストからのカバーにより、中国まで及



んだ⁵。

不完全統計によると、彼の曲から生まれた中国語のカバー曲の数はすでに100を超えたという⁶。彼も今、中国ではもっとも有名な日本人歌手の一人として知られている。

② 中島みゆき

日本の実力派シンガーソングライター。1975年のデビュー以来、日本のポピュラー音楽界に数多くの素晴らしい曲を貢献した。彼女は中国語圏でもっとも数多くカバーされたアーティストである。彼女もまた膨大な数のカバー曲より、中国には高い認知度を得ている。

③ 谷村新司

谷村新司と言えば、日本では押しも押されぬ「音楽界の永遠の青春像」である。デビュー以来30年余り、他の歌手のために作曲した楽曲も含め、谷村さんの作品は多くの人々の愛唱歌になっている。名曲「昴」を機に、1987年から18年連続で紅白歌合戦に出場し、紅白歌合戦の常連大物歌手となった。80、90年代、香港の多くのスター歌手が彼の作品を歌っている。

谷村新司は今、中国・上海音楽学院で教授を務め、中国の若者達に音楽の持つ力や素晴らしさを伝えていて、多くの中国人から尊敬されている。

④ テレサ・テン（鄧麗君）

テレサ・テンは台湾出身の歌手で、時代を代表する歌姫である。1970年代末から80年代初めにかけて、テレサ・テンの歌声が突如中国の人々の耳に飛び込んできたとき、あの世代の夢も甘い歌声と共に高く舞い始めた。多くの人はテレサ・テンの柔らかい歌声を通して、初めて「流行音楽」というものに触れた。40年たった今でも中国で最も影響力のある人に選ばれ、多くの人々に愛されている。中国と日本だけではなく全アジア地域で支持を得ていて、あの時代の標識となった⁷。

テレサ・テンは1973年に「ウォー・アイ・ニー（我愛你）」で日本デビュー

⁵徐元勇. 翻唱・玉置浩二・張學友. 日語知識. 2007 (11). P47を参考

⁶ 同上

⁷楊豔麗. 從城市民族音樂學視角看“鄧麗君現象”. 樂府新聲. 2009 (3). 144-153を参考



一を果たし、それから、一人で百曲以上のカバー曲を歌った。上記の三人と違うのは、彼女は他のアーティストの曲を中国語にカバーした作品もあり、自分の曲を自らカバーした（セルフカバー）こともある。

1.1.3 カバー曲流行の安定期（21世紀）

21世紀に入り、アジアでは、中華圏を中心に、ポピュラー音楽市場は国境を越えてますます密接に結び付くようになっている。中国の音楽市場がだんだん熟していくにつれて、オリジナル曲の質と量がだいぶ増えたため、全体的にカバー曲が減っていったが、決してなくなった訳ではない。

2009年、台湾で公開された映画「海角七号 君想う、国境の南」、その挿入歌にもなっている「それぞれに」も香港の人気歌手劉徳華によりカバーされるほど大人気となった。また、中国のデュオ筷子兄弟によりリリースした、2010年公開の映画「老男孩」の大人気の同名主題歌も大橋卓弥「ありがとう」のカバーである。

21世紀に入ると、カバー曲の量が目に見えるように減っていた。それに、カバー曲はよく映画の主題歌や挿入歌という形で現れるのがこの時期のカバー曲の特徴だと考えられる。

1.2 原曲の伝播

中国語にカバーされたものに比べれば、日本語で歌う原曲は中国では、それほど多くないが、一部の人（青少年、アニメファン、哈日族など）から支持されているため、どんどん中国で伝播していく。本節も、日本語原曲の伝播過程をカバー曲と同じく、年代別に分けて論じていく。

70年代－80年代この時期には、日本のドラマとアニメが輸入され、大人気になった。この時期輸入されたアニメが子供向けのため、その主題歌が中国語にカバーされてから放送したが、ドラマの主題歌が日本語のままであるものが多いため、この時期から、中国国民が日本語の原曲に接触した。

90年代に入ると、ドラマの変わりに、アニメが日本ポピュラーカルチャーの代表となり、「ドラゴンボール」、「ドラえもん」、「名探偵コナン」などがしばしば登場する。アニメ旋風で、アニメソングが人気を得て、日本語原曲



伝播の速度も一気に上がった。

以上に述べたように、日本原曲は殆どカバー曲と同じ時に中国に入ってきたが、言葉の違いが主な原因で、カバー曲ほど盛んになっていなかったが、グローバル化が進むにつれて、アニメ、映画、技術革新、または日本アーティストの活躍で、カバー曲の勢いが衰えた今、ようやく伝播のピークを迎えた。

2. 中国における日本ポピュラー音楽の受容要因

一衣帯水の隣国として、中国と日本は古くから交流が多かったが、その後様々の要因から、全体的に言うと、中国民衆の反日感情が強く、反日活動もしばしば発生したため、日本音楽が消滅することなく、これまで受容されたのか。筆者は先行研究を踏まえながら、本節において、その原因を全面的に探討してみようと思う。

2.1 日本の文化発信戦略

経済発展は必ず、文化の繁栄を牽引する。戦後、日本は高度成長を遂げ、一挙に世界第2位の経済大国にのし上がった後、文化の面でも、80年代から、文化的発展とその発信にも注目し始めた。

まず、教育の面では、日本政府は国際理解教育を推進し、他文化の理解や相互依存関係の理解をより深くし、世界への日本文化の発信の基盤が作られた。他にも、積極的に英語教育を行うとか、外国から留学生を招くために沢山の奨学基金を設定し、色々な政策を打ち出したなど、様々な努力をしている。

それに、日本は優れた伝統文化の発展に大いに力を入れ、日本文化の各国との交流と理解を積極的に促進した。頻繁に国際的文化活動に参加し、自国の文化影響力の増強を図っている。文化方針の面でも、「吸収型」から「発射型」へと変わった⁸。

以上の述べた日本側の様々な文化輸出に関する有利なる方針・政策は日本音楽文化の中国への進出の推進力となった。

⁸李文. 日本文化在中国的伝播与影響: 1972-2002. 北京: 中国社会科学出版社, 2004. 66を参考

2.2 中国若者の働き

若者はコンテンツを消費する主体だから、若者の日本ポピュラー音楽に対する態度が日本ポピュラー音楽の中国での伝播と受容を大きく左右できると考えられる。では、若者たちはどうやって中国における日本ポピュラー音楽の伝播と受容を促進したのか。

90年代、たくさんの香港、台湾からの歌手が中国市場にめざし、積極的に活動を行うようになった。その時期、それらの歌手が大量な日本カバー曲を歌っているため、熱狂的なファンたちは自分の憧れの歌手の歌を歌っている間に、間接的に日本ポピュラー音楽の浸透を推進した。

80、90年代、中国には日本のアニメが次々に放映され、中国の子供たちの心をとらた。いまや毎年、アニソンの歌唱コンクールやアニソン祭が各地で開催されるほど、高い人気を得ている。こう見ると、アニメは日本ポピュラー音楽の中国での受容の最大の体制だといっても過言ではない。

以上に述べたように、日本ポピュラー音楽はこれまで広まっているには、比較的に新しいものを受け入れやすいという特徴を持つ中国の若者たちが重要な役割を果たしたと考えられる。

2.3 中日文化の類似性と相違性

中日文化の間に一定の類似と相違が共存しているのが、日本文化が中国で広く受容される心理的な要因だと思われる⁹。日本ポピュラー音楽がこれまで中国で受容されたのは中日文化の間には沢山の共通点が存在しているおかげだと考えられる¹⁰。

中国人は日本文化に対する抵触心理がそれほど強くないと思われる。中国では、西洋文化を受け入れるより、日本文化を学ぶのは中華文化を捨てることでもなく、東方文化を裏切ることでもない。それが故に、反日活動があるにも関わらず、日本音楽などの日本文化への反対の声はあまりない。

⁹李文. 日本文化在中国的伝播与影響: 1972-2002. 北京: 中国社会科学出版社. 2004. 16-19を参考

¹⁰肖爽. 類似と相違——中日文化の相違を考える. 北星学園大学文学研究科大学院論集. 北海道: 北星学園大学出版社. 2010. 16を参考



それで、他国より、中国人は日本の音楽歌詞を把握することが易しく、共感を感じやすいのである。日本語の分からない人でも、漢字を通して、曲のテーマと大筋が理解できる。

以上に述べたように、日本の文化発信戦略と中国の改革開放で、日本ポピュラー音楽の中国での伝播に好条件が整った。それに、中日文化の類似性と相違性によって、日本からのポピュラー音楽文化は比較的を受け入れやすい文化と考えられる。

三、結論

グローバル化時代の経済成長は、必然的に文化の多様性をもたらす。ポピュラー音楽もその影響でさらに多彩な姿を現している。その中、中国からのポピュラー音楽の影響要素は少しであるにも関わらず、その魅力を示すようになってきた。筆者は中日のポピュラー音楽の発展に興味を持ち、本論文では中国における日本ポピュラー音楽の伝播と受容について研究してきた。今までの中日両国における先行研究を参考しながら、中国における日本のポピュラー音楽の受容過程およびその原因と影響を分析し、日本のポピュラー音楽が中国で広く浸透した理由を探してみた。

中国ポピュラー音楽は発展の道で色々な困難と遭遇したが、改革開放によって、発展の好条件が整った。最初のカバーによる模倣から、オリジナルの全盛期に入ってくるまで、中国は日本音楽から大きな影響を受けた。また、音楽産業における目覚ましい発展を遂げている日本は、これからも中国音楽産業の発展に参考を供するであろう。

本論文は、限りある資料を整理し、作成してきた。日本音楽産業の成功について、中国が学ぶべき点について、まだ色々な研究課題が残っている。それらに対しての研究は、これからの課題として取り組みたい。



四、謝辞

この論文が出来上がるまでの道程を振り返ってみると、改めて私を支えてくれた人々のことを思い出します。この論文を作成する際に、この場を利用してご協力いただいた方々に御礼の言葉とさせていただきます。

本論文を執筆するのは私だけであったが、成先生の手助けがなければ完成できないと思います。まず何よりも、指導教師であるに、論文のテーマ決定から、資料収集、書き方、言語表現までいろいろ親切にご指導いただき、日本語ばかりではなく、中国語の表す方及び日本式の思惟をまじめにご指導いただき、誠に感謝の念に堪えません。本稿を書く間に、準備不足で観点が不明確などの問題に困られたが、成先生からたくさんの珍しい意見をいただき、ここで、誠に感謝の意を表します。

また、日本語学部の諸先生から三年間ご指導鞭撻をいただき、謹んで深甚なる感謝の意を表します。

五、参考文献

- [1] 吉村信. 香港「時代曲」の爛熟 1950s' ~ 1960s'. ポップ・アジア, 1995 (02). 32-33
- [2] 高橋孝助. 上海史-巨大都市の形成と人々の営み. 東京. 東方書店. 1995
- [3] 蔡易達. 台灣語の歌手之「日歌台唱」. 東京. 音楽之友社, 1997
- [4] 羅奇祥. 中国情報早わかり. 東京. 三修社, 2000
- [5] 屋葺素子. 台湾における日本ポピュラー音楽の受容. 財団法人交流協会日台交流センター歴史研究者交流事業報告書, 2001
- [6] 徐元勇, 韓小龍. 我國當代流行歌曲中的日本歌曲旋律. 日語知識. 2003.
- [7] 孫蕤. 中国流行音楽簡史. 北京. 中国文联出版社. 2004
- [8] 李文. 日本文化在中国的伝播与影響. 1972-2002. 北京. 中国社会科学出版社. 2004
- [9] 井口壽乃. 戦後日本における「国際性」とアート&テクノロジーの拡大. 平成16-18年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書, 2006
- [10] 小田切麻里. 音楽の真の楽しみ方. 東京外国語大学卒論, 2006
- [11] 徐元勇. 翻唱・玉置浩二・張學友. 日語知識, 2007 (11). 47
- [12] 祝方悦. 中国の若者における日本ポピュラー文化の受容. 大阪府立大学学報, 2008
- [13] 王梅. 流行歌曲流行、発展之思考. 河北. 大舞台雜誌社編輯部, 2009 (05). 28
- [14] 王歡. 論流行樂壇的翻唱. 河北大學修士論文, 2009
- [15] 晁春蓮. 日本流行歌曲在中国的伝播与接收. 日語学習与研究, 2010 (04). 36-42
- [16] 肖爽. 類似と相違——中日文化の相違を考える. 北星学園大学文学研究科大学院論集. 北海道. 北星学園大学出版社, 2010. 15-24
- [17] 星野幸代. 台湾映画『海角七号』における日本. 「野ばら」をめぐって.



言語文化研究叢書，2010（09），32-42

[18] 屈慧文. 浅析中国流行音乐现状及發展態勢. 河北師範大学修士論文, 2011（09）

[19] 山室紘一. 世界のポピュラー音楽史. 東京. ヤマハミュージックメディア, 2012.

[20] 人民網. 中国人が愛するテレサ・テン、生誕60周年 歌声は永遠に.
[Http://j. People. Com. Cn/206603/8113077. Html](http://j.people.com.cn/206603/8113077.html) 2013年1月30日

[21] 産経ニュース. 音楽ソフト、日本が米国抜く. 12年、世界最大市場に.
2013年04月08日

装

订

线